

## 音楽によるモチベーションの向上：

## シャンソンの効果的利用を目指して

### La musique comme déclic : quelques idées pour

### l'utilisation de chansons francophones en cours

西川 葉澄

NISHIKAWA Hasumi

Université Chrétienne Internationale (ICU)

nhasumi@icu.ac.jp

#### はじめに

フランス語の歌には、歌詞はじっくりと聴くものだというシャンソンの伝統が現代においても継承されているように感じられる。そのようなフランス語の歌をどう授業に組み込んでいけるかということを経年々わたって考えてきた。なぜなら歌で外国語を学ぶプロセスには、言葉とメロディーという強力な組み合わせにより、学生の頭や心に記憶が残りやすい可能性を秘めているからである。現在もまだ試行錯誤の過程にあるが、音楽を鑑賞することに照準を当てず、様々なジャンルの歌を学習目標に合わせて少しずつ活用し、小さな activités にする実践例のいくつかを紹介したい。

#### 1. なぜ歌を使うのか

フランス語の授業に歌を使う理由として、まずその documents authentiques としたの高い価値を無視することはできないだろう。教科書に出てくる文章がいかにか生き生きと響くように工夫されているとしても、様々な文法事項を織り込まなくてはならない、語彙を制限しなくてはならないなど数多くの制約があり、不自然なやりとりや人工的な文章を扱うことが多い。特に文法だけを教える授業においては、この文法がいつどこで役に立つのだろうかという疑問が、学生の文法学習へのモチベーションを低下させる可能性も考えられる。そのような状況において、フランス語の歌を使うことには、短時間で生きたフランス語に触れる機会を学生に与えるという利点がある。特に昔からのスタンダードとなっているような歌手の作品では、発音や滑舌が素晴らしいものが多い。これらは聞き取りの素材として高い価値を持つといえるだろう。

さらに、音楽を通して学生のモチベーションを向上させることができるのではな

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2012

いかという目論見もある。学習自体に興味がなくとも気に入った音楽ならもっと聞きたい、覚えたい、意味を知りたいなど、自発的な授業外の自律学習への可能性を秘めているのではないだろうか。また、フランス語圏の文化紹介としての側面も忘れることはできない。

### 2. 歌で何をするのか

実際の授業において歌で何をするかというのと、私の考える第一の目的に、歌を素材として文法学習事項の確認と定着をねらうということがある。文法事項として習ったことは、実際にこうして使われているのだと学生に実感させることがそのねらいである。具体的には、習得して欲しい文法項目が効果的に歌詞にあがっている歌を素材に穴あきディクテ問題を作成し、歌を聞きながら学習項目が理解できれば解けるような聞き取り／書き取りをさせる。習ったことが実際に聞き取れ、意味が理解できたというインパクトにより学習事項を印象づけると同時に、「習ったから、謎の音が言葉として聞き取れた」という満足感を与えるためである。

歌をまず聞いて、そこから帰納法的に文法を学んだり、TV5 で紹介されているような一つの歌を素材として1回の授業を組み立てるという方法は理想的ではあるが、実際には授業時間などの制約からそうした自由な時間が取れないことが多いのではないだろうか。そのような理由から、一つの文法事項を学習した後に、その項目に関連する素材と時間があるときにのみ実行可能な、短時間でできる *activités* を模索した結果、歌詞を部分的に聞き取る *activités* に至ったのだが、その際に注意していることは、歌を全曲にわたって聞かせないことである。なぜなら、この聞き取りは学習事項の確認のためにするものであるため、全ての歌詞を聞かせる必要はなく、歌詞の分量が増えれば、歌詞の難易度が学生の理解度に対応しない可能性が高くなるからである。また、歌を聞く側の心理を考えた時に、音楽に対する好みを軽視することはできない。嫌いな音楽を数分間以上強制的に聞かされる心理的負担は相当なものであろう。そのため、学生側からの要望がある場合に限って全曲を聞かせることもあるが、通常聞かせる分量は最初のリフレイン部分までとすることが多い。さらには、リフレインの部分のみを聞かせたり、リフレインの途中で中断することも多い。目的はシャンソン鑑賞ではなく、学習事項の確認と定着だからである。学生がこの授業活動を通して気に入る歌を発見した暁には、おそらく教師に CD を貸して欲しいと頼む、自ら YouTube でビデオを検索するなど次のアクションに移るであろう。もちろん授業で歌を歌わせることもしない。同様の理由で歌詞全体の和訳も行わない。

リフレインとタイトルが同じ曲ならタイトルを想像させることも可能である。フランス語の音への興味付けやつづりと音の関係などを実感するため、文化的側面の示唆や日本ではますますその機会が減少しつつあるフランス文化のインプットとしても有効であろう。

### 3. どのように歌を聞かせるか

歌を聞かせる *activités* を短時間におさめるようにしている。なるべく毎回の授業で少しずつ音楽を使う *activités* を取り入れ、フランス語の歌を聞く頻度を増やし、授業で聞く音楽は高尚なハイカルチャーだという特殊感を払拭し、通常あまり馴染

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2012

みのないフランス語の歌に気軽に親しめるようにしたいと考える。

また、バラエティに富んだ選曲を心がけ、ジャンルや歌手についても教師側の趣味の押しつけにならないように気を使っている。教室で聞かせる歌の選択に教師の好みは反映してしまうのは避けられない事実であり、教師の好みをあくまでも貫くという態度もあるだろうが、音楽は個人の快・不快に直接的に作用するものであると同時に、ことさら現代にあっては音楽の好みは細分化／多様化しており、教師が素晴らしいと思う曲が、必ずしも学生の好みに一致してはいない。このような理由から曲の選択に教師の思い入れを強く反映させるのを避け、教室の反応を敏感に読み取り、学生の反応を次回の選曲に役立てることが重要になるだろう。どのような目的に、どのような曲がうまくいったかなどについての教師間の情報交換や、定期的なレパトリーのアップデートも課題になるであろう。

### 4. 期待される展開

こうした activités により期待される展開は、学習項目の確認と定着と同時に、授業での体験を通して学生が新しい文化を発見できるような好循環を作り出すことである。つまり、授業で歌を少し聞く→気になる／気に入る→インターネット等で検索→曲を好きになる→フランス語にさらに興味を持つ→モチベーションが上がる→授業で歌を聞く、というサイクルが実現すれば理想的であると考えている。

実際には授業評価のコメント等で学生側から一定数の評価を受け、授業での発見を機会にフランス語で歌われる音楽に興味を持った学生も少なくなかった。

### 5. 実践例

歌を全曲にわたって味わうような教案では初級からの導入は難しいが、部分的な聴解に限定するなら初級レベルにおいても様々な可能性がある。以下の表にこれまでの経験においてどの学習項目で、どの曲の使用が効果的だったかを示したい。

<初級>

目的	タイトル	歌手
ABC	Les derniers seront toujours les premiers	Katerine
名前を聞く／言う	Philippe	Katerine
所有形容詞	Dans mon corps	Les Trois Accords
所有形容詞 (例外)	L'amoureuse	Carla Bruni
ou [u]の音への注意喚起	Les cailloux	Oui Oui
数字ききとり およびフランス文化 (駅)	Puisque vous partez en voyage	Jacques Dutronc / Françoise Hardy

Katerine のビデオクリップはくせが強いため万人向きではないが、Philippe においては「Comment tu t'appelles ? – Philippe」というやりとりが延々となされるのでどんな初級者も歌詞を聞き取ることができるだろう。また Carla Bruni のビデオクリップは平均的なフランス語学習者が考えるようなパリ／フランスのイメージが展開され、特に女性に好印象を与えるかと思われる。Les cailloux のビデオクリップは歌詞に ou のつづりを含む語が多数あり、日本人に多い発音の間違いを訂正するきっかけに使うことができる。Puisque vous partez en voyage のビデオクリップで

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2012

は駅構内が舞台になるため、駅の様子等の文化的側面を学生に示す資料ともなる。

<初級～中級>

目的	タイトル	歌手
Vouloir + 不定詞	La liste	Rose
半過去	Elle s'appelait Serge	Les Trois Accords
	La lune	Les Trois Accords
単純未来	Scenic Railway	Serge Gainsbourg
	Quand je chanterai une chanson d'amour	Claude François
接続法	Quand je chanterai une chanson d'amour	Claude François

La liste はビデオクリップに文字が現れるため、学生が聴覚と視覚の双方から情報を得ることができる。Elle s'appelait Serge は、特に *Le Nouveau Taxi! 1* (Hachette) の Leçon31 (Ma première histoire d'amour) の学習後に聴かせると、同じ動詞の半過去が出てくるため、動詞活用パターンへの定着が図れた。Les Trois Accords はケベックのロックバンドだが、多用の理由はアメリカのロックの曲調に近く、学生が抵抗なく親しめるということにある。実際多くの学生が好印象を示し、興味を持ったようだった。Quand je chanterai une chanson d'amour は、Claude François の滑舌が非常によく、聞き取りがしやすいのでいい素材である。この曲は単純未来形以外にも、初級者に接続法の活用を実感させるのに役に立つ。歌の出だしは *Il faut que tu comprennes...* という教科書に必ず出てくる *Il faut que* + 接続法の歌詞から始まるが、後にもう一回 *Il faut que je sois ...* と出てくるため、*Il faut que* の従属説が接続法になるということの定着として期待が持てる。

### 6. 今後の実践案：アトリエでの検討

RPK のアトリエにおいて、今後授業に導入検討中の素材を参加者と共有し、広く意見を求めた。以下の表に目的と曲名等の情報およびコメントを記す。

目的	曲名	歌手	コメント
複合過去	Reviens mon amour	Marc Lavoine	世界観が暗く扱いづらい。複合過去の部分を聞き取りよりも、何を失ったのかという語彙の聞き取りのほうがいい。
声をかける、頼む(命令形)	Avec classe	Corneille	ビデオクリップの舞台がモントリオールであり、フランス語圏の文化紹介になる。歌詞が若干聞き取りづらい。
人称代名詞、命令形、口語表現	Elle me dit	Mika	2012 年の初めには流行っているが、流行の陰りも早いだろう。
単純未来形	Je partirai	Anggun	フランス代表として2012年のユーロビジョンに参加した歌手であり、今後の活躍が期待できる。未来形の復習にはいいが、ビデオクリップが教室で見せづらい。

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2012

また、厳密なフランス語圏からのフランス的なものを扱った情報ではないため、これまであまり扱われず、むしろ禁じ手とされてきた素材にあえて挑戦する意味で以下の曲も紹介した。La mer (Charles Trenet)が映画『Mr.ビーン カンヌで大迷惑?!』(Mr. Bean's Holiday)のエンディング・シーンに全曲使われており、映像の面白さから学生の興味を引く可能性があるが、目的としてはla merなどの語の聞き取りまたは、コートダジュールの紹介程度であろう。日本人とフランス人の両親を持つMichelle Michinaが歌うMon amourは日本の若者に好まれそうな要素が多く、歌詞はほとんど日本語だがリフレインにフランス語が少しだけ入る。その部分が所有形容詞の確認になるが、フランス語が少なすぎるという問題がある。また、フランスの演歌歌手としてデビューしたというGinjiro Sweetは谷村新司『昴』をフランス語でカバーしており、『サルトルとボーヴォワール』の監督イラン・デュラン＝コーエンによるビデオクリップが存在するが、若者には何をカバーしているのかわかりづらいという問題も予想される。カラオケ好きな熟年層には好適なのではという指摘があった。

また、アトリエではVanessa ParadisのLa Seineを素材として、参加者が様々なactivités案を出し合ったが、多くの教師がブレインストーミングをすることにより、多様なアイデアが出され、教師間の情報交換や協力でフランス語教育に役立つフランス語の歌のアーカイブを作成する可能性が展望できた。

### 7. 使用機材及び素材収集について

使用機材としては、身軽かつ気軽に教室に持ち込めるため、インターネットから取り込んだビデオクリップをiPodに入れ、iPodを専用ケーブルで教室のテレビに接続して見せることが多いが、ビデオのダウンロードが困難な場合は教室で端末をインターネットに直接接続することになるだろう。CDで楽曲のみを聴かせることもあるが、ビデオの利点は映像があると短時間とはいえ文化的な側面も紹介できるということにある。その一方で、ディクテにおいては映像があると配布するディクテ教材と同時に見るのが困難なので、音声のみを聞かせる方が集中できるという面もある。教室活動の目的により、使用メディアには一長一短がある。

素材収集については、インターネット上の様々なサイト(YouTube, Daily Motion, Chocolat, TV5 monde等)により誰にでも簡単にビデオクリップを見つけることができよう。インターネットラジオの利用で日本にいながらフランスの音楽を聴くことができるのはありがたいことである。

### おわりに

歌を語学学習に利用することに関しては、まず選曲に注意を払うことが大きな課題となるだろう。教師のこだわりを見せすぎたり、あるジャンルや歌手などに偏ったりせず、かといって学生に媚びすぎないことも大切だろう。さらには、音楽を利用する時は無意味に聞かせるのではなく、必ず目的を設定することも重要である。この2つの点に注意してフランス語の歌を気軽に授業で使用することにより、フランス語やフランス語圏の文化に親しみ、学生が自発的に教室外においてフランス語に触れたいくなるような環境を整え、フランス語に対するモチベーション持続のきっかけとなればと願っている。